

2013 年 9 月 27 日

プレ・メディア・コンファレンス

APRC

出席者

エサペッカ・ラッピ	(チーム MRF)
マイケル・ヤング	(クスコレーシング)
新井 敏弘	(スバルチーム アライ)

司 会: みなさん、最初にここ十勝の人と日本のラリーファンを代表して申し上げます。ラリー北海道 2013 へようこそ！今年の APRC の闘いはとても面白いものになっています。というのもトップを行くドライバー 3 人のポイント差はわずか 3.5 ポイントです。ラッピ選手は 2 位につけていますが、1 位とは 0.5 ポイント差で、フィニッシュした 2 大会とも優勝しています。アジア・パシフィックのラリーファンは、いまやラッピ選手がなぜ「神より速い男」と呼ばれる理由を十分理解していると思います。ではラッピ選手、シーズン優勝を決心していると思います。そうすると優勝のためには限界まで攻めるという方法もありますが、同時にリタイヤのリスクを犯さないようにすることも必要になってくるかもしれません。そこでどのような戦略を考えていますか。

ラッピ: よい質問ですね。自分でもわからないんですけどね。まあ、僕はゆっくりではなく賢くスタートしてチームメイトのギルの走りを見ることにします。もちろんタクル選手とも闘っていますが、今はギルを重視します。ギルの様子を見て、ラリーの間にどうするか決めますよ。もっとプッシュしなくてはいけないかな。でも確実にいえるのはフィニッシュすることです。それが目的であり、シュコダのためでもあります。

司 会: 今年はラッピ選手にとっては初めての APRC 出場で、訪れたことがない国でもラリーを闘っていますが、素晴らしいパフォーマンスですね。その秘密はどこにあるのでしょうか。

ラッピ: このような状況で最も重要なのは、ペースノートだと思います。完璧とは言えなくても、とても良いノートを作ることはできますからね。というのも日本でさえ経験がありませんから。そしてできる限りの準備をすることです。例えば YouTube の画像を見るとかですね。それでも最も大きな役割を果たすのは間違いなくペースノートです。どうやって車を走らせるのかはわかっていますから。そうです。そう思いますね。

司 会: ラッピ選手、ありがとうございました。では、ヤング選手にお聞きします。今年はこれまで、トヨタ・ヴィッツをラリーの国際舞台ですばらしいデビューを飾りました。さらにマレーシアでは初優勝しています。誰も

がかなり厳しいラリーだったに違いないマレーシアで。これらの実績からみると、陸別のステージも、もはやヤング選手の快進撃を止められないと言ってもよいでしょうか。

ヤング： 今回来てみて確かに陸別はとても記憶に残っていますが、鍵はもちろんステージを走り切ることです。今年は水の量も多く、加えてとても荒れていました。マレーシアでは明らかに上手くいったので少し自信ができました。私はトヨタ車のドライバーとして日本に来られてとても嬉しいです。日本の車でダンロップのタイヤですから、良くないわけがありません。

司 会： 初優勝を飾ってトヨタの母国に来たので、今年はより多くの注目を集めていると思います。それがプレッシャーになっていますか。

ヤング： 少しはそうですね。でもトヨタのような名のあるメーカーの車で走れるのは素晴らしいことです。これはビッグニュースですし、トヨタの車をドライブできて嬉しいです。すごく速い車で開発にも役立ちます。送られてきたこの車をコンテナから降ろしてすぐにサービsparkに入れましたが、その状態でも十分速い車でした。トヨタの車で日本で走ることにとても満足しており、今後のラリーの展開が楽しみです。

司 会： ありがとうございました。そして新井選手。昨年は時間不足でセッティングが固まらない状態の4ドアのインプレッサに苦心し、陸別では新たな伝説を作りながらも優勝を果たしましたが、今年の仕上がりはいかがでしょうか。

新 井： セッティングはできていましたよ。ただ自分がヘタでぶつかっただけで。今年はですね、去年の陸別以来走っていなかったんですね。レギュレーションの関係でロールバーの付け替えをしなければならなかったもので、全然乗っていなかったんです。今日はシェイクダウンで乗った感じでは、そこそこ同じような感じでは走ったので頑張ります。

司 会： 日本のファンも、「世界のアライ」とファビア勢、特にそちらの「神よりも速い男」との対決に注目していると思いますが、ラリー北海道の3連覇、期待してもよろしいでしょうか？

新 井： そうですね。今APRCで走っていて、神の速さは十分わかっているの。普通にやるとだいたいキロ2秒ぐらい離れているんですね。スタートで。ある程度日本なので道の感じもわかっているの、1秒とかキロ、コンマ何秒とかかなるといいなという感じですかね。いい勝負ができれば一番いいんですけど、なかなか車両の差とかいろいろあると難しいかなとは思いますが、できるだけ精一杯頑張っ走りま。